

(学校番号212)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>【学習上の課題】 国語科における「話すこと」、数学科における「関数」領域について、課題が見られる。 【指導上の課題】 ICT機器を用いる等して、繰り返し知識・技能を習得する機会を設定する必要がある。</p>	<p>⇒ 生徒に対するきめ細かな指導を実現するため、少人数指導や習熟度別指導、補充的指導など「個に応じた指導」を進める。 児童生徒が教え合う学び(協働学習)や一人一人の能力・適性に応じた学び(個別学習)などにICTを活用し、社会で生きていくために必要な資質・能力を育成していく。 【全国学力学習状況調査平均正答率を昨年度の数値以上となるようにする】</p>
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】 全体を通して良好な結果であったため、より教科の見方・考え方を高められるようにしていく。 【指導上の課題】 解決に向けて、生徒が主体的に物事を判断したり表現したりする授業を展開する必要がある。</p>	<p>⇒ 求められる資質・能力の育成を目指し、「主体的な学び」の創造に向け、自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく「課題発見・解決学習」等を推進していく。 探究の過程を振り返らせ、学習対象に対する自己の見方や考え方の高まりを自覚する活動により、生徒が新たな課題意識をもつような働きかけを行う。【全国学力学習状況調査平均正答率を昨年度の数値以上となるようにする】</p>

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>市平均・全国平均と比べて、国語科、数学科ともに高い結果であった。領域別に比較しても、結果は良好であった。本校の特徴としては、国語科は「情報の扱い方に関する事項」、数学科は「図形」領域が他領域と比較すると低い結果であった。特に、国語科では「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」項目、数学科では「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」項目で低い数値が見られた。</p>
思考・判断・表現	<p>市平均・全国平均と比べて、国語科、数学科ともに高い結果であった。領域別に比較しても、結果は良好であった。本校の特徴としては、国語科は「読むこと」、数学科は「図形」領域が他領域と比較すると低い結果であった。特に、国語科では「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」項目、数学科では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」項目で低い数値が見られた。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	概ね良好である。より校内全体でICT活用等の研修を深め、改善策を継続できるようにしていく。	左記のとおり継続していく。【さいたま市学習状況調査平均正答率を、市平均正答率以上となるようにする】
思考・判断・表現	A	概ね良好である。より校内全体で「深い学び」・「主体的な学び」の研修を深め、改善策を継続できるようにしていく。	左記のとおり継続していく。【さいたま市学習状況調査平均正答率を、市平均正答率以上となるようにする】

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)